

2018年度 ときわぎ工舎事業報告

1. 事業活動重点事項の成果及び課題

(1) 就労移行支援事業（定員 15 名 契約利用者数 14 名 12.9 名／日）

就労者は 1 名であった。町内のスーパーやドラッグストアにて職場体験や実習を行ってきたが、単発的なものが多く就労には繋がらなかった。実習期間や実習の間隔を考慮しながら複数回行える実習先を開拓したい。職種も介護事業所での清掃や工場での作業のように種々の作業内容を準備することが必要である。

(2) 就労継続支援事業B型（定員 15 名 契約利用者数 23 名 17.2 名／日）

日々の納品や販売会を利用者と共に行うことで、製造した品が目の前で売れていくことを実感できた。またそこで店員やお客と会話等で触れ合うことにより事業所では得られない貴重な経験となった。

受注作業を始めた。単純作業だからこそ集中できる利用者にはよい作業種だった。

(3) 就労定着支援事業（利用者 6~7 名）

2018 年度 7 月より開始。利用者には月 1 回の職場訪問及び月 1 回の自宅訪問を行い、本人はもちろん家族や職場関係者と連携をとってきた。また余暇支援を促し、訪問とは別の環境での対話を設定してきた。それにより近年では離職者は 0 名である。

※就労者数や工賃額等対策を講じ実行してきたが、課題も多い。

※受注作業、山羊農家との連携、障害者就労事業振興センターからの請負作業、それぞれの作業で活躍できる利用者があることも事実である。山羊農家とは睦沢広報に掲載されたことで反響がある。また、睦沢町産業振興課とタイアップして作成したリゾットも販売され、9 月にオープンする新道の駅にも出品予定である。これらをきっかけに様々なつながりを広げていきたい。

2. 運営について

(1) 販売について

1) 現在の販路である、茂原カインズホーム・睦沢道の駅つどいの郷や千葉市は一とふる等の繋がりを絶やすことのないように丁寧に関わってきた。

2) 地元産の食材を使うことで商品の良さを PR し付加価値を高めることを行ってきた。

(2) 就労者は 1 名であった。体験的な職場実習と力をつけるための実習との多方面から実習先を探したい。

(3) 夷隅方面の利用者対策として送迎を充実させてきた。夷隅特別支援学校生徒の実習生が増え、新規利用者獲得につながった。

- (4) 職員のスキルアップ…園内研修や外部研修を行ってきた。報酬改定等、制度についてその都度確認し、職員間で共通認識を図った
- (5) 衛生管理の徹底…異物混入等のないように細心の配慮をしてきた
- (6) 近隣住民との関係について
地域の草刈りやゴミゼロ運動には積極的に参加してきた。